

NPO（特定非営利活動法人）

映画美学校

THE FILM SCHOOL OF TOKYO

フィクション・コース第27期高等科

募集要項

Fictional Film Production Course

2024

フィクション・コース第27期高等科 カリキュラム

■初等科体験から高等科体験へ

初等科生たちが「映画美学校はコスパがいい」と言っているのを聞きました。つまりは講師陣からのリターンがメチャクチャ多いと。何で講師陣がこんなに、時には口うるさく、強引に思えるくらいあだこうだ言うかという、受講生にサービスしたいからじゃない、作品作りはとにかくあの手この手で必死になるしかないからです。自分の作品も他人の作品もない、講評の場で見たばかりの作品一つ一つに必死になって向き合う。それを通じて、自分たちが「いかに判っていなかったか」を実感して貰えれば、ひとまず初等科は成功です。じゃあ、高等科はどうするのか？「判っていなかった」を「どうすればいいか？」という具体的な対策へと突き詰めてゆく、それが高等科で体験して欲しい段階です。今、ボンヤリと掴みかけていることを、自分なりの方法論として掴み取る。それは同時に講師陣が何であんなに必死なのかが「判る」場でもあるのです。

■脚本コースとのコラボ「10分短編映画制作」

脚本コース第13期高等科後期生が書いたシナリオを映画化する実習です。単に脚本コースからシナリオを提供してもらうのではなく、脚本を執筆した脚本コース生とフィクション・コース生とが、両コースの講師も交えて本直しを行い、撮影稿に仕上げていく、脚本コースとのコラボレーション講義です。制作は2班に分かれて行います。監督はじめスタッフは受講生が受け持ちます。脚本コース生も含めた、新たな仲間づくりをして下さい。

■“プロとの映画作り”「コラボレーション実習」

映画作りにおいて何をどれだけ経験したか、その「量」の差が、いわゆるプロとアマを分かります。そのことを嫌というほど思い知るの、プロと同じ現場に立ったときのプロの動きが、アマであるあなたとはまったく違うことを目の当たりにしたときです。大事なのは、このプロと「同じ現場」に立つことで、「量」とは何かを具体的に問うという体験です。「コラボレーション実習」では、プロである講師陣とともに15分程度の短編映画を企画し、撮影し、仕上げます。受講生のなかからも監督が選ばれ、受講生全員が講師陣(当然ながら技術講師もプロの現場スタッフとして参加する)と「同じ現場」で、コラボしながら映画作りを行います。しかし、「量」が常に勝利するわけではありません。「量」に伴うべきは「質」だし、「質」はときとして「量」の多寡と無関係に、つまりプロとアマの差を超えて、きっとあなたを動かします。その「動き」が、受講生を「修了制作」での「動き」へと導きます。

■体験を血肉化する「修了制作」

「10分短編映画制作」「コラボレーション実習」を経て掴み取った方法論を、最終的に試す場が「修了制作」です。まずは一人一人が30分の短編シナリオを企画し、完成させます。完成したシナリオは選考にかけられ、選ばれたシナリオを受講生だけで制作します。制作費は学校からの予算およそ60万円です。

- 演出・脚本講師：西山洋市(映画監督)、高橋洋(映画監督・脚本家)
- コラボレーション実習担当：高橋洋(映画監督・脚本家)、万田邦敏(映画監督)
- 技術講師：山田達也(撮影)、白井勝(録音)

担当講師メッセージ

「F27高等科で目指してほしいこと」

近年映画が内向きになる傾向が強まっているような気がする。それは、題材や表現においてもそうだが、作り手の視野自体が狭く閉じているところからくるのではないかと思われる。そこで高等科では気持ちを一新して、「世界」に向けた映画を作ることをつねに意識して作品制作に臨んでほしい……初等科では個々の興味によってそれぞれの個人的な映画が作られたが、高等科では「世界」に目を向けることで格段に視野を広げた映画を構想し、作り出してみしてほしい、ということだ。「世界」とは文字通りの世界＝ワールドだけを意味するわけではないし、なにか立派な主義主張を映画に盛りこめと言っているわけでもない。だが「世界」に向けて作る作品は、個人的興味だけで自分のやりたいことをやりたいようにやるだけでは成立しない。はっきりと外部に向けた視点としっかりした考えを持たなければそれは作れないし、他者に通じるものにもならないだろう。だが一方で、それらは個人的な興味と繋がっていなければ形だけの嘘くさいものにしかならないだろうし、そもそも構想できるものでもないだろう。やりかたはいろいろあると思うが、たとえば初等科で撮った個人的興味に基づいた映画から世界に視野を広げて新たにテーマを掴みだすとしたらどうなるか。新たな視点(世界)から個人的なテーマを見直し、拡大することで、思わぬ新しい作品が生まれ出てこないだろうか。反対に、世界的な問題や課題から興味あるテーマを見だし、それを作者の目線で映画的なコンセプトに変換する(ドラマ化する)というデザインの仕方もあるだろう。いずれにしろ新たな試行錯誤が必要になるが、大事なことは視野を広げて世界と接続させることで、あなたの作品世界を外部に向けて拡張することだ。もちろんシナリオだけでなく、演出においても世界レベルの新しい演出を目指してほしい。新しい演出は世界に向けた新しいテーマを持った企画からしか生まれえないと思うからだ。以上述べてきたことを、みなさんは絵空事のように感じるだろうか？ だが、もはやそれを目指さなければ進化は望めない段階にみなさんは来ていると思ってほしい。そして、考え方をちょっと変えればそこに行けるはず、そしてそれはみなさんの映画とみなさん自身を拡張させるはず、という可能性の予感があるからこそ、このような考えが僕の中に生じたに違いないのだ。

西山洋市

「自分の脳みその外側に出て考える」

今期の初等科で修了制作のシナリオ相談に乗っていて、なかなかキャッチボールが成立しないなというもどかしい思いに駆られることが多かったです。上がってくるシナリオにコメントをつけて返すのだけど、それに対するリアクションがないまま時間が経って、また改訂稿が上がってくるけど、それは受講生が自分の思いの中だけで堂々めぐりをした結果を見ているだけのようで。別に今期だけではなく、大学での授業も含めて、近年ひじょうに気になる傾向です。そこで、来期高等科の僕なりのテーマは「対話する技術を磨く」にしてみたいです。もちろん、僕のコメントに返信してあれこれ議論をしたからって、突然、劇的にシナリオがよくなるなんてことはないわけです。なかなか返信しにくい事情もある程度、憶測できます。僕のコメントがよく判らない、でも「判らない」ということを人に見せるのに抵抗がある。あるいは言うことは判るけど、自分がこだわっていることは違う。その「違う」ということをどう言葉にすればいいのか判らない。さらには、いや、言うことは判るし、自分もそうしたい。でもどうしたらそうなるのかで行き詰まってしまう…。こんな感じではないでしょうか？ うーん、もどかしい。そういう抵抗とか、行き詰まり感こそが、開かれた思考を生み出すきっかけになるのだし、まさにそのチャンスが目の前に転がっているというのに、反射神経は閉じる方を選んでしまっている。そして遠回りな道へとさまよい込み、「何がやりたかったのか判らなくなった」と言い出す。毎日、さまざまに思い迷い、何も信じられなくなったりするが、実は自分が日々繰り返している「閉じる選択」だけは疑っていない。あまりに習い性になってしまって、そもそも疑いの眼を差し向ける対象にすらなっていない。が、プレヒトは、そういう状態こそ「異化」しようと言ったのだ。日常の中に埋没し、無思考状態になっているものを疑おうと。たぶん天変地異とか事件に出会ったりすると、当たり前のものが当たり前に見えなくなる体験を誰もがするんだろうが、そんな大仰な体験をしなくても、映画作りとは自分の当たり前の思考の外側に無理やり出させられることの連続なんである。それは、僕なりの実感から言えば、「自分の脳みその外側に出て考える」ということなのだ。みんなはまだ自分の脳内で、脳内にある引き出しだけで処理しようとしてると思います。だが、そもそも映画を見るとは、自分の脳内処理が追いつかなくなるぶっ飛んだ体験のはずだ。昨今はそういうのは「観客置いてけぼり」で処理されてしまうのだろうか？ まことに世の中は「物事をつまらなくする」罠に満ちている。罠は自分の中に潜んでいる。シナリオに話を戻すと、じゃあどうしたらいいんだという解決策は外側からやって来る感じなんです。映画や現実の中に見出す無数のパターンの組み合わせとして。アンテナは外側に向かって立っている。内側ではない。昔のプロ野球選手が「グラウンドにはゼニが落ちている」と言ったけど、そうなんです。外側と繋がる感覚を研ぎ澄ませねばならない。そういう思考法をみんなと一緒に試していきたいです。初等科でもやっていたんだけど、なかなか伝わらないようなので、もっと意識化して、自分なりに方法論化できないか取り組んでみたいです。

高橋洋

フィクション・コース第27期高等科カリキュラムの主な流れ

9月24日	開講ガイダンス／短編をつくる1：要項提示・班分け発表	短編1
10月	短編をつくる1：講評	
11月	10分短編映画制作：シナリオ提示・班分け・ホン直し	10分短編制作
12月	10分短編映画制作：撮影準備・リハーサル・模擬撮影	
2025年1月	10分短編映画制作：撮影・ポストプロ	10分短編制作
2月	10分短編映画制作：上映と講評 コラボレーション実習：企画提示 コラボレーション実習：スタッフ編成	
3月	コラボレーション実習：企画開発・撮影準備 コラボレーション実習：各部講義（撮影・照明・録音・制作）	コラボレーション実習
4月	コラボレーション実習：リハーサル・撮影準備	
5月	コラボレーション実習：撮影 コラボレーション実習：ポストプロダクション講義 コラボレーション実習：編集 短編をつくる2：要項提示	コラボレーション実習
6月	コラボレーション実習：整音、効果 コラボレーション実習：グレーディング 修了制作：要項提示	
7月	コラボレーション実習：ファイナルダビングミックス コラボレーション実習：初号試写 短編をつくる2：講評	修了制作
8月	修了制作：シナリオ開発	
9月	修了制作：シナリオ提出・選考	修了制作
	修了制作実習	

※ 修了制作のシナリオ開発等は、クラス制となります（開講後クラス分けします）。

【短編をつくる1】

班分けをして、それぞれ一人1本ずつ10分程度の短編を作ります。まずは高等科での肩慣らしですが、初等科からの顔馴染みのメンバーも、各人が高等科に向けた目標や希望を持っています。仲間意識を更新しましょう。

【10分短編映画制作(脚本コースとのコラボレーション)】

脚本コース第13期高等科後期受講生が書いたシナリオをフィクション・コース第27期高等科受講生が制作する、脚本コースとのコラボレーション講義です。2班に分かれて、脚本コース、フィクション・コースの講師と受講生たちが参加する本直し、フィクション・コース講師の立ち会いで行う模擬撮影、受講生たちだけで行う撮影、ポストプロを経て作品を完成させます。

【コラボレーション実習】

2班に分かれて、講師とともに15分程度の短編映画のシナリオを開発し、撮影し、仕上げを行います。担当講師は高橋洋(映画監督・脚本家)と万田邦敏(映画監督)です。

コラボレーション実習の目標は大きく分けて2つです。

1. 講師(プロ)がどのようにシナリオを構想するのかを間近に見る

受講生は、コラボで制作する映画のシナリオを担当講師と共に企画、執筆します。通常の企画講評・シナリオ講評とは違い、講師も自分の作品としてシナリオ作りに参加していきます。講師が何を考え、何を抛り所とし、何を狙っているのか、講師のシナリオ作りの現場を共作者として体験します。シナリオの開発期間は約2ヶ月です。

2. 講師(プロ)の演出技術・撮影録技術に間近に触れる

監督は講師と受講生(代表者)が務め、またプロである撮影照明講師、録音講師も参加して撮影・仕上げを行います。撮影前に、技術パートは実践的な技術講義を行います。プロと共に映画作りは、受講生仲間だけでの映画作りとはまったく別と言っていいほどの体験です。彼らの技術を同じスタッフ仲間として間近に触れることで、受講生の意識と技術は確実にレベルアップします。撮影期間は2日間、ポストプロ期間は2ヶ月程度です。

◇準備(2月~4月)

企画の立ち上げからシナリオづくり、撮影に向けた準備、ロケハン、キャスティングなど多岐にわたる課題・問題点を全員で共有し、各部ごとの準備を進めます。

◇各部講義・テスト撮影(4月)

撮影に向けて、撮影部・照明部・録音部・制作部はレクチャーを受け、撮影本番に向けてのテスト撮影を行います。

◇リハーサル(4月)

撮影稿をもとに、芝居を作り込んでいく過程を受講生全員で体験します。

◇撮影(5月)

講師陣とともに撮影現場を体験します。初等科で行ったミニコラボ実習とは比較にならない、経験したものだ「これを通るか通らないかでは全く違う」現場体験が待っています。

◇編集(5月)

完成までの作業を自分たちで行います。スタッフを再編成し、全員で編集から仕上げまで取り組みます。

◇デジタル・グレーディング(6月)

映像の色彩補正作業は、作品の最終的なルックを決める大事な作業です。

◇音仕上げ作業(6~7月)

編集同様、完成までの作業を録音講師の指導を受けて自分たちで行います。ポストプロダクション講義を経て、本格的な整音作業を体験します。「音で映画を豊かにする」ということはどういう事なのかを実際に機材を動かしながら体験して行きます。ファイナルダビングミックスには録音講師が立ち会います。

【短編をつくる2】

「10分短編映画制作」「コラボレーション実習」で得た経験を生かして、各人が10分程度の短編を制作します。班分けはしませんが、新たな意識で繋がった仲間たちとぜひ協力し合ってください。

【修了制作】

受講生各人が、まずは修了制作作品となる24分から30分尺のシナリオの企画・開発を行います。その後、企画検討→シナリオ化→シナリオ検討→最終シナリオ(&シナリオ検討会)と続きます。これまでの高等科体験で得た経験を総動員して、最終シナリオを完成させます。最終シナリオと「短編をつくる2」での作品をもとに、2025年9月に修了制作を選考します(修了制作の本数は受講生の人数(つまり予算)によって変動します)。10月から制作を開始し、2026年4月ごろを完成の目処とします。完成尺は30分以内です。

映画美学校フィクション・コース第27期高等科 募集要項

【受講期間：2024年9月24日（火）から2025年9月

※2025年9月から2026年4月までは修了制作の制作期間となります。

【受講資格：第27期までのフィクション・コース初等科修了生、フィクション・コース第24期前期修了生／第24期初等科後期修了生、映画映像制作の基礎を修得した方

【講義日程：＜開講日＞2024年9月24日（火）19時から。※詳しくはカリキュラム日程表をご覧ください。

【定員：26名（最低開講人数19名）

【受講料：379,000円＋保険料9,000円＝388,000円（税込）

※映画美学校をはじめ受講される方は、上記の受講料以外に入学登録料（10,000円）が必要になります。実習費等の別途徴収はありません。

※受講料のお支払いは一括支払いか分割支払いをお選びください（映画美学校通年講座を初めて受講される方は全額分割はご利用いただけません）。

※受講証の有効期限は2024年9月までとなります。

※受講料の分割払いでのお支払いにつきまして

総額388,000円（受講料379,000円・保険料9,000円）

194,000円を前払い（映画美学校通年コースを初めて受講される方は204,000円） 残額194,000円が分割払いになります。

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	388,000	194,000	194,000	8,150	202,150	40,430
10	7.00%	388,000	194,000	194,000	13,580	207,580	20,758

全額388,000円が分割払いになります。（映画美学校通年コースを初めての方は選択出来ません）

お支払回数	金利	合計金額	前払金	残額	分割払利息	分割支払金合計	毎月の引き落とし金額
5	4.20%	388,000	0	388,000	16,300	404,300	80,860
10	7.00%	388,000	0	388,000	27,160	415,160	41,516
20	10.50%	388,000	0	388,000	40,740	428,740	21,437

（単位：円／税込）

【申込締切：2024年9月14日（土）まで（尚、締切日以前に定員に達した場合は申込受付を締め切らせて頂きます）。

【申込方法：オンラインによる申込

映画美学校ホームページよりお申し込みください。

選考のうえ、合格者には、合格通知と受講手続きのご案内をメールまたは郵送いたします。

申し込みはこちら



【受講手続：合格通知に記載されている受講手続きに従い、受講料をお振込ください。入金を確認された時点で申込み受付完了となります。

※講義開始に関わらず、申込者の自己都合での解約による受講料の返金は原則お断りいたします。ただし、疾病等、本校がやむを得ないと認める事由についてはご相談に応じます（詳しくは映画美学校約款をご参照ください）。

映画美学校約款

■ 受講上のご注意

- ◎ 講義の写真撮影、録画、録音はご遠慮ください。
- ◎ 持病のある方、あるいは体調不良になられた方は事務局にご相談下さい。
- ◎ 講義の際に使われる各種の機材・備品などの取り扱いは十分に注意して下さい。機材や備品を大切にすることは映画づくりの基本です。
- ◎ 館内での私物の管理は、各自で責任を持って行って下さい。賠償の責は負いかねます。また、受講生本人の不注意による事故や物的損害に対しても同様です。
- ◎ 当校は現役の映画人に講師をお願いしておりますので、講師のご都合またはやむを得ぬ事由により、講師やカリキュラムを変更することがあります。また、交通機関の混乱や、天災地変などやむを得ない事情で、カリキュラムを変更する事があります。
- ◎ 各コースのカリキュラムは、講師陣により日々検討を重ねております。そのため、要項に記載のカリキュラムが若干変更・修正される可能性もございます。変更・修正の際は理由を説明いたします。
- ◎ 急なカリキュラムの変更等、当校より緊急連絡をさせていただくことがございます。ご登録の氏名・住所・連絡先等に変更があった場合は、すみやかに事務局にお知らせ下さい。
- ◎ 受講希望者が一定の人数に達しないクラスは、開講を見合わせる場合もあります。

■ 受講取消の扱い

- ◎ いったん納入した受講料は、原則としてご返金できません。各講座の予算は講師陣と事務局が協議して慎重に確定いたしますので、その後のキャンセルはカリキュラムの実現に重大な支障を来します。ただ、病気や転勤など、当校がやむを得ないと認めた場合は、開講日以前であれば下記の計算方法でご返金いたします。その場合、医師による診断書や勤務先の辞令(コピー可)など、受講不可能となった事由を証明する書類をご提出下さい。

■ 受講開始日より起算した返金額

30日前まで：全額の90%

29日前～14日前まで：全額の75%

13日前～7日前まで：全額の50%

6日前～1日前：全額の25%

なお、講義開始後のお申し出は、お受けできません。

■ 安全面について

- ◎ 映画の撮影時には、スタッフ、キャストともに目の前のことに集中するので、事故が起こりやすいものです。事務局から配布される注意事項をよく読んで厳守し、撮影にかかわる人たち全員が安全面に配慮することで、絶対に事故を防ぐようにして下さい。将来、講座修了後も、映画を制作し続ける限り、一番大切なことです。なお、注意事項に書かれていないことは、遠慮なく事務局にご相談下さい。
- ◎ 非常口、避難通路などは事前にご確認下さい。災害が発生した場合は、必ず係員の指示に従って行動して下さい。

■ 著作権について

- ◎ 本校のカリキュラムの一環として制作された画像、動画、サウンド等の著作権は基本的に映画美学校に帰属します。従って、それらの全部又は一部および、授業風景等を録画・録音したものの全部又は一部を、本校の広報・業績・紹介目的のため、任意かつ無償で利用することがあります。その際、著作者の氏名の表示を省略することもあります。諸般の事情により支障のある方は、開講してなるべく早い時期に事務局にご相談下さい。なお、利用にあたっては、第三者の著作権、商標、名誉、信用、肖像権その他の権利を侵害しないように細心の注意を払います。

■お申込み・お問合せ

特定非営利活動法人 **映画美学校**

〒150-0044

東京都渋谷区円山町1-5 KINOHAUS B1F
(渋谷・文化村前〈松濤郵便局前〉交差点左折)

TEL 03-5459-1850 FAX 03-3464-5507

<http://www.eigabigakkou.com>

受付時間(月～土) 12:00～20:00

